

## リトアニア語のモダリティ表現

櫻井 映子

リトアニア語では、ムード（法）は動詞の文法的カテゴリーとして現れ、直説法、接続法、命令法の3種が、動詞の活用として形態の上で明確に表される。他のインド・ヨーロッパ語族の諸現代語で衰退した接続法が、現在もなお盛んに用いられている点は、ロマンス諸語と同様である。なお、伝統文法(LKG, DLKG, LG)では、分詞のいわゆる間接法（他の用語で関係法・伝聞法）の用法もムードの中に入れていたが、分詞は動詞から派生した形容詞的品詞であるので、厳密にはこれを動詞の形態論的カテゴリーとしてのムードに含むべきではない。また、ラトヴィア語などと異なり、少なくとも現代リトアニア標準語（とくに口語）では、分詞が間接法的に用いられることはきわめてまれである。

広い意味でのモダリティ（法性）の表現には、英語などと同様に、リトアニア語でも、ムード的機能をもつ助動詞が盛んに用いられる。また、他の多くの諸言語におけるように、モダリティはテンスやアスペクトとも深く絡み合っており、リトアニア語のモダリティ研究では、動詞のテンス・アスペクト諸形式の機能と意味を綿密に観察する必要がある。また、モダリティ表現は動詞以外の様々な方法によっても示される。とくに副詞の *gal* “たぶん、おそらく” は「可能性」を表すために広く用いられる。

それでは、以下に、アンケートの項目に従って、解説を加えながら、リトアニア語のモダリティ表現を例示する。<sup>1</sup>

まず、拘束的モダリティのうち、「許可」の表現には、「可能性」を表すムード的助動詞の *galėti* “～できる” の直説法の現在形・未来形、もしくは、命令法の2人称形が用いられる。リトアニア語では、2人称単数形は、親しい人や目下の相手一人に対して用いられ、2人称複数形は、複数の相手もしくは敬意を示すべき相手一人に対する丁寧な表現として用いられる。ここでは複数形の例を挙げる。例文(1a, b)を参照。また、*galėti* から派生した現在受動分詞の中性形である *galima* “できる、許される、～してもよい” を述語とする無人称文は、より明確な「許可」の表現に用いられる。*galima* は不定詞をとまなうことも、単独で現れることもある。例文(1c)を参照。なお、無人称文では、意味上の主語は与格で表される。例文(1d)を参照。

<sup>1</sup> アンケート回答の作成に当たって、Jurgita Polonskaitė 氏（実践女子大学大学院博士後期課程）及び Ramutė Bingelienė 氏（Vilnius 大学）に多大なご協力をいただいた。心よりお礼申し上げます。なお、アンケートという原稿の性質上、詳しく解説することが出来なかった点については、参考文献を参照されたい。

(1) その仕事が終わったら、もう帰ってもいいですよ。

a. Kai baigsite darba, {galite/galésite} grįžti namo.

～時 終える.FUT.2.PL 仕事.ACC できる.PRES/FUT.2.PL 帰る.INF 家へ<sup>2</sup>

b. Kai baigsite darba, grįžkite namo.

～時 終える.FUT.2.PL 仕事.ACC 帰る.IMP.2.PL 家へ

c. Baigiau darba. Ar jau galima grįžti namo?

終える.PAST.1.SG 仕事.ACC ～か もう できる.PASS.PRES.P.N 帰る.INF 家へ

– Taip, galima.

はい できる.PASS.PRES.P.N

(私は) 仕事を終わりました。もう帰ってもいいですか？ –はい、いいですよ。

d. Jums jau galima grįžti namo.

あなた.DAT もう できる.PASS.PRES.P.N 帰る.INF 家へ

あなたはもう帰ってもいいですよ。

一方、「禁止」の表現には、(1)の例文と対応する否定形が用いられる。例文(2a, b, c)を参照。また、drausti “禁止する” から派生した現在受動分詞の中性形である draudžiama “～してはいけない” はより明確な「禁止」の表現に用いられる。例文(2d)を参照。

(2) 腐っているから、あなたはそれを食べてはいけません（食べないでください）。

a. Nevalgykite, nes tai sugedę.

食べない.IMP.2.PL それは腐っているから

b. Negalima valgyti, nes tai sugedę.

できない.PASS.PRES.P.N 食べる.INF それは腐っているから

c. Negalima! Tai sugedę, nevalgykite.

できない.PASS.PRES.P.N それは腐っている 食べない.IMP.2.PL

いけません！それは腐っています、食べてはいけません（食べないでください）。

d. Draudžiama valgyti, nes tai sugedę.

～してはいけない.PASS.PRES.P.N 食べる.INF それは腐っているから

腐っているから、食べてはいけません。

「義務」は、動詞 turėti “持つ、持っている、～ねばならない” を助動詞として分析的に

<sup>2</sup> 本稿で用いる略号は以下の通り：ACC accusative (対格); ACT active (能動態); ADJ adjective (形容詞); ADV adverb (副詞); DAT dative (与格); FUT future (未来); GEN genitive (属格); IMP imperative (命令法); INF infinitive (不定詞); N neuter (中性); NOM nominative (主格); P participle (分詞); PASS passive (受動態); PF perfect (パーフェクト); PL plural (複数); PRES present (現在); SBJV subjunctive (接続法); SG singular (単数)。なお、例文中の括弧{ }は置換可能であることを示す。

表される(例文(3a)).あるいは、「評価的義務」を表す形式である無人称動詞 reikėti “必要だ”の3人称形を述語とする無人称文によっても表されるが、この場合、“～する必要がある、～すべきだ”のような必要性・必然性の意味がより強い(例文(3b)).

(3) 遅くなったので、私たちはもう帰らなければならない。

- a. Vėlu, todėl mes jau {turime/turėtume} grįžti.  
遅い だから 私たち.NOM もう ~ねばならない.PRES/SBJV.PRES.1.PL 帰る.INF
- b. Vėlu, todėl mums jau {reikia/reikėtų} grįžti.  
遅い だから 私たち.DAT もう ~すべきだ.PRES/SBJV.PRES.3 帰る.INF

「推奨」は、命令法の2人称形、もしくは、「評価的義務」を表す形式である無人称動詞 reikėti “必要だ”に、婉曲化の機能をもつ副詞の gal “たぶん、おそらく”を添えて表される。例文(4a, b)を参照。「推奨」の表現では、直説法よりも接続法の使用がより自然である。例文(4c)のような接続法を用いた仮定文も、広義の「推奨」に含まれよう。「弱い義務」は不定詞を述語とした無人称文によっても表される。例文(4d)を参照。

(4) 雨が降るそうだから、傘を持って出かけたほうがいいですよ。

- a. Sako, kad lis. Gal pasiimkite skėtį išeidamas.  
雨が降るそうだと たぶん 持って行く.IMP2.PL 傘.ACC 出かけるとき
- b. Sako, kad lis. Gal jums reikėtų pasiimti skėtį.  
雨が降るそうだと たぶん あなた.DAT ~すべきだ.SBJV.PRES.3 持って行く.INF 傘.ACC
- c. Sako, kad lis. Būtų gerai, jei išeidamas pasiimtumėte skėtį.  
雨が降るそうだと be.SBJV.PRES.3 よい.ADV もし 出かけるとき 持って行く.SBJV.PRES.2.PL 傘.ACC
- d. Sako, kad lis. Gal pasiimti skėtį?  
雨が降るそうだと たぶん 持って行く.INF 傘.ACC  
雨が降るそうだから、傘を持って行くべきか?

「評価的義務」(～すべきだ)は、無人称動詞 reikėti “必要だ”の3人称形(例文(5a)), 形容詞 būtinas “必要な、必然の”の中性形 būtina(例文(5b)), もしくは、形容詞 privalus “必要な、必須の”の中性形 privalu(例文(5c))等を述語とする無人称文によって表される。

(5) 歳を取ったら、子供の言うことを聞くべきだ(聞くものだ)。

- a. Pasenus reikia klausyti vaikų.  
年を取ったら ~すべきだ.PRES.3 聞く.INF 子供たち.GEN
- b. Pasenus būtina klausyti vaikų.  
年を取ったら ~すべきだ.ADJ.N 聞く.INF 子供たち.GEN
- c. Pasenus privalu klausyti vaikų.  
年を取ったら ~すべきだ.ADJ.N 聞く.INF 子供たち.GEN

欲求的モダリティのうち、「希望」は、一般的に、英語などと同様に、“～（名詞）を欲する”を意味する動詞 *norėti* を助動詞として分析的に表現される（人称制限はない）。例文(6a)を参照。再帰動詞 *norėtis* を用いた無人称文もまた、婉曲の「希望」を表す。例文(6b)を参照。接続法は、いずれの場合も、婉曲表現として非常によく用いられる。

(6) お腹が空いたので、私は何か食べたい。

- a. *Išalkau. {Noriu/norėčiau} ką nors suvalgyti.*  
 お腹が空いた ～したい.PRES/SBJV.PRES.1.SG 何か.ACC 食べる.INF
- b. *Išalkau. {Norisi/norėtįsi} ką nors suvalgyti.*  
 お腹が空いた ～したい.PRES/SBJV.PRES.3 何か.ACC 食べる.INF

1 人称の「意志」（事態が制御可能なもの）は、最も典型的には、1 人称の未来形で示される（例文(7a)）。「可能性」を表す助動詞の *galėti* “～できる”の直説法または接続法の 1 人称現在形を用いると、提案の意味が強まる（例文(7b)）。不定詞を用いた疑問文の場合も同様である（例文(7c)）。

(7) 私が持ち（支え）ましょう。

- a. *(Aš) palaikysiu.*  
 私.NOM 持つ.FUT.1.SG
- b. *(Aš) {galiu/galėčiau} palaikyti.*  
 私.NOM できる.PRES/SBJV.PRES.1.SG 持つ.INF
- c. *(Man) palaikyti?*  
 私.DAT 持つ.INF  
 (私が) 持ち（支え）しましょうか？

「勧誘」は、いわゆる 1 人称複数の命令形（例文(8a)）、あるいは、1 人称複数の直説法現在形または未来形（例文(8b, c)）によって示される。命令形を用いた方が、話し手の直接的な強い願望・要求を前面に出すことになる。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

- a. *Tai valgykime pietus kartu.*  
 では 食べる.IMP.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- b. *Tai valgome pietus kartu.*  
 では 食べる.PRES.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- c. *Tai valgysime pietus kartu.*  
 では 食べる.FUT.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に

相手の意向が不明な場合の「勧誘」は、基本的に、例文(8)で例示した「勧誘」の表現に、

婉曲化の機能をもつ副詞の gal “たぶん、おそらく” を添えた疑問文で表される (例文(9a, b, c)). 接続法現在形を用いた場合 (例文(9d)), あるいは、動詞 norėti “～(名詞) を欲する” を助動詞として分析的に表現した場合 (例文(9e)) は、より相手の意志・希望を尊重した丁寧な表現となる。norėti の否定形も可能だが、婉曲表現としての否定はリトアニア語では一般的ではない (例文(9f)).

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

- a. Gal valgykime pietus kartu?  
たぶん 食べる.IMP.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- b. Gal valgome pietus kartu?  
たぶん 食べる.PRES.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- c. Gal valgysime pietus kartu?  
たぶん 食べる.FUT.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- d. Gal valgytume pietus kartu?  
たぶん 食べる.SBJV.PRES.1.PL 昼ごはん.ACC 一緒に
- e. Gal {norite/norėtumėte} valgyti pietus kartu?  
たぶん ～したい.PRES/SBJV.PRES.2.PL 食べる.INF 昼ごはん.ACC 一緒に
- f. (Ar) {nenorite/nenorėtumėte} valgyti pietus kartu?  
～か ～したくない.PRES/SBJV.PRES.2.PL 食べる.INF 昼ごはん.ACC 一緒に

制御不可能な 3 人称主語の事態の実現への望みとしての「希望」は、接続法の現在形が義務的に用いられる (例文(10a, b, c)). 直説法未来形を用いると、「希望」というよりは単なる条件の意味になるので、この場合は置換できない (例文(10d)). なお、リトアニア語の仮定文では、従属節と主節の動詞が両方とも接続法で現れる。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ (明日は良い天気になってほしいなあ).

- a. Būtų gerai, jeigu rytoj būtų geras oras!  
be.SBJV.PRES.3 よい.ADV もし 明日 be.SBJV.PRES.3 よい 天気.NOM
- b. {Noriu/norėčiau}, kad rytoj būtų geras oras!  
～したい.PRES/SBJV.PRES.1.SG ～こと 明日 be.SBJV.PRES.3 よい 天気.NOM
- c. Kad rytoj būtų geras oras!  
～こと 明日 be.SBJV.PRES.3 よい 天気.NOM
- d. ? Bus gerai, jeigu rytoj bus geras oras!  
be.FUT.3 よい.ADV もし 明日 be.FUT.3 よい 天気.NOM

リトアニア語の 2 人称単数形と複数形の区別には、ムード的な意味が関わっている。2 人称複数の命令形は、複数の相手に対する命令、もしくは、敬意を示すべき相手一人に対

する丁寧な命令を示す。例文(11a)と(11b)を比較。

(11) 私はここで待っているから、すぐにそれを持って来なさい。

a. Aš čia palauksiu.

私.NOM ここで 待つ.FUT.1.SG

O tu greičiau nueik ir jį atnešk.

一方 君.NOM すぐに 行く.IMP.2.SGそして それ.ACC 持って来る.IMP.2.SG

私はここで待っているから、君はすぐにそれを持って来なさい。

b. O jūs greičiau nueikite ir jį atneškite.

一方 君たち/あなた(たち).NOM すぐに 行く.IMP.2.PLそして それ.ACC 持って来る.IMP.2.PL

君たち/あなた(たち)はすぐにそれを持って来なさい/来てください。

話し手の直接的な要求を示した例文(11)に比べて、より婉曲的な命令、もしくは「懇願」を表す例文(12)のような場合、命令形(例文(12a))よりも接続法現在形を用いた方が自然である(例文(12b))。また、助動詞の galėti “～できる”の直説法または接続法の現在形を用いた分析的表現は、さらに婉曲的で丁寧である(例文(12c))。「懇願」の表現には、しばしば、婉曲化の機能をもつ副詞の gal “たぶん、おそらく”を添える(例文(12b, c))。なお、日本語と異なり、リトアニア語では、「懇願」の表現に否定はあまり用いられない(例文(12d, e))。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

a. Paskolinkite trumpam parkerį.

貸す.IMP.2.PL 少しの間 ペン.ACC

b. Gal paskolintumėte trumpam parkerį?

たぶん 貸す.SBJV.PRES.2.PL 少しの間 ペン.ACC

c. Gal {galite/galėtumėte} trumpam paskolinti parkerį?

たぶん できる.PRES/SBJV.PRES.2.PL 少しの間 貸す.INF ペン.ACC

d. (Ar) nepaskolintumėte trumpam parkerio?

～か 貸さない.SBJV.PRES.2.PL 少しの間 ペン.GEN

e. (Ar) {negalite/negalėtumėte} trumpam paskolinti parkerio?

～か できない.PRES/SBJV.PRES.2.PL 少しの間 貸す ペン.GEN

動的モダリティのうちの「能力可能」は、典型的には、動詞 mokyti “～できる、能力がある”を用いて示す(例文(13a))。ただし、1人称の場合以外は、実際の会話では相手への敬意を示すために、特別な助動詞なしで「能力可能」の意味を表すことが多い(例文(13b))。一方、「状況可能」を表す動詞 galėti “～できる”は、「能力可能」をも表す(例文(13c))。

(13) 彼は中国語が読めます (彼は中国語を読むことができます)。

- a. Jis moka skaityti kiniškai.  
彼.NOM. できる.PRES.3 読む.INF 中国語で
- b. Jis skaito kiniškai.  
彼.NOM. 読む.PRES.3 中国語で
- c. Jis gali skaityti kiniškai.  
彼.NOM. できる.PRES.3 読む.INF 中国語で

「状況可能」は、典型的には、動詞 galėti “～できる”をともなう分析的表現によって表されるが(例文(14a)), 直説法現在形(とくに完了的・限界的意味をもつ接頭辞つき動詞)によって表すこともある(例文(14b))。また、先述の「許可」・「禁止」の表現(例文(1b, c, 2b, c))にも用いられる無人称述語の galima “できる”(例文(14c)), 動詞 įmanyti “理解する, できる”派生の現在受動分詞の中性形 įmanoma “できる”(例文(14 d))も「状況可能」を表す。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

- a. Tamsu, todėl negaliu perskaityti, kas čia parašyta.  
暗い だから できない.PRES.1.SG 読む.INF 何.NOM ここに 書く.PAST.PASS.P.N
- b. Tamsu, todėl neperskaitau, kas čia parašyta.  
暗い だから 読まない.PRES.1.SG 何.NOM ここに 書く.PAST.PASS.P.N
- c. Tamsu, todėl negalima perskaityti, kas čia parašyta.  
暗い だから できない.PASS.PRES.P.N 読む.INF 何.NOM ここに 書く.PASS.PAST.P.N
- d. Tamsu, todėl neįmanoma perskaityti, kas čia parašyta.  
暗い だから できない.PASS.PRES.P.N 読む.INF 何.NOM ここに 書く.PASS.PAST.P.N

認識的モダリティの「確信」は、拘束的モダリティの「義務」と同様に、動詞 turėti “持つ, 持っている”を助動詞とする分析的形式によって表される(例文(15a))。また、直説法未来形が, tikrai “確かに”のような副詞をともなって「確信」を表すこともある(例文(15b))。直説法未来形の本来的なムード的意味は「推量」であるが、その蓋然性の度合いは共起する副詞によって変わる。例文(16)も参照。

(15) 朝早く出発したから、彼らはもう着いているはずだ(もう着いたに違いない)。

- a. Jie anksti išvažiuo, todėl jau {turi/turėtų} būti ten.  
彼ら.NOM 早く 出発する.PAST.3 だから もう ~はずだ.PRES/SBJV.PRES.3 いる.INF そこに
- b. Jie anksti išvažiuo, todėl jau tikrai bus ten.  
彼ら.NOM 早く 出発する.PAST.3 だから もう 確かに いる.FUT.3 そこに

直説法未来形は、典型的には tikriausiai や gal “たぶん、おそらく”などの副詞をともな  
って、「推量」を表す(例文(16)).

(16) 彼は今日はたぶん来ないだろう。

- a. Jis šiandien tikriausiai neateis.  
彼.NOM 今日 たぶん 来ない.FUT.3
- b. Gal jis neateis šiandien.  
たぶん 彼.NOM 来ない.FUT.3 今日

「推量」と同様に「疑念」もまた、tikriausiai や gal “たぶん、おそらく”などの副詞を  
用いて表す。リトアニア語では、「疑念」を示すのに否定疑問形式は用いられない。また、  
推量される結果のよし悪しは、形式上区別されない。なお、過去に起きた事態に関する「推  
量」あるいは「疑念」は、直説法過去形(例文(17a)), もしくは、未来パーフェクト形(連  
辞動詞 būti と過去能動分詞主格形の組み合わせ)(例文(17b))によって表される。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

- a. Jų vis dar nėra, {tikriausiai/gal} pakeliui mašina sugedo?  
彼ら.GEN ずっと まだ いない.PRES.3 たぶん 途中で 車.NOM 壊れる.PAST.3
- b. Jų vis dar nėra, {tikriausiai/gal} pakeliui mašina bus sugedusi?  
彼ら.GEN ずっと まだ いない.PRES.3 たぶん 途中で 車.NOM 壊れる.FUT.PF.3

認識的モダリティのうちの「可能性」は、動詞 galėti “~できる”をともなう分析的表現  
(例文(18a)), あるいは、未来形に gal “たぶん、おそらく”等の副詞を添えて表される(例  
文(18b)).

(18) さあ、昼時だから、彼は家にいるかもしれないし、いないかもしれない。

- a. Hm, dabar pietūs, jis gali būti, gali ir nebūti namuose.  
さあ 今 昼時 彼.NOM できる.PERS.3 いる.INF できる.PERS.3 また いない.INF 家に
- b. Hm, dabar pietūs, jis gal bus, gal ir nebus namuose.  
さあ 今 昼時 彼.NOM たぶん いる.FUT.3 たぶん また いない.FUT.3 家に

証拠性のモダリティのうち、「視覚/聴覚以外の感覚による判断」は、atrodyti “~のよ  
うに見える、思われる”の3人称形 atrodo “~のようだ”(例文(19a))や、「推量」の副詞  
tikriausiai “たぶん、おそらく”などによって表される(例文(19b)).

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

- a. (Palietus kaktą) Atrodo, turite temperatūros.  
額に触ってみて ~のようだ.PRES.3 持つ.PERS.2.PL 熱.GEN
- b. (Palietus kaktą) Tikriausiai turite temperatūros.  
額に触ってみて たぶん 持つ.PERS.2.PL 熱.GEN



「伝聞」は、より古い時期のリトアニア語（とくに文語）では、しばしば分詞によって表された。これは、先述の通り、伝統文法 (LKG, DLKG, LG) では間接法（もしくは関係法・伝聞法）として動詞のムード形式に含まれているが、現代リトアニア語（とくに口語）ではきわめてまれな表現である（例文(20a)）。現代語ではふつう「伝聞」を表すために直説法の各テンス形が用いられる（例文(20b)）。

(20) 天気予報によれば、明日は雨が降るそうだ（明日は雨が降ると予報されている）。

- a. ? Prognozuojama, kad rytoj lysią (būsiąs lietus).  
 天気を予報する.PASS.PRES.P.N ~こと 明日 雨が降る.ACT.FUT.P.N ある.ACT.FUT.P.N 雨.NOM
- b. Prognozuojama, kad rytoj lis (bus lietus).  
 天気を予報する.PASS.PRES.P.N ~こと 明日 雨が降る.FUT.3 ある.FUT.3 雨.NOM

リトアニア語では、いわゆる「反実仮想」の意味は、接続法の形式によって表される（例文(21a)）。直説法は「反実仮想」を表すことはできない。接続法現在形を直説法未来形に置き換えると、意味は単なる条件に変わる（(21b)）。なお、この際、直説法現在形には置換できない（例文(21c)）。

(21) もしお金があったら、あの車を買うんだけれどなあ。

- a. Jeigu turėčiau pinigų, tai pirkčiau tą mašiną.  
 もし 持つ.SBJV.PRES.1.SG お金.GEN それなら 買う.SBJV.PRES.1.SG あの 車.ACC
- b. Jeigu turėsiu pinigų, tai pirksiu tą mašiną.  
 もし 持つ.FUT.1.SG お金.GEN それなら 買う.FUT.1.SG あの 車.ACC
- c. ?? Jeigu turiu pinigų, tai perku tą mašiną.  
 もし 持つ.PRES.1.SG お金.GEN それなら 買う.PRES.1.SG あの 車.ACC

「反実仮想」の意味のうち、とりわけ、今後の実現の可能性は全くない過去の事態を表す場合、接続法過去形が義務的に用いられる（例文(22a)）。直説法過去形には置換できない（例文(22a)）。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

- a. Jeigu būtumėte nepaaiškinęs, būčiau neatvykęs ten.  
 もし 教えない.SBJV.PAST.2.PL 着かない.SBJV.PAST.1.SG そこに
- b. \* Jeigu nepaaiškinote, neatvykau ten.  
 もし 教えない.PAST.2.PL 着かない.PAST.1.SG そこに

欲求的モダリティの「希望」は、動詞 norėti “～を欲する” によって表される。日本語のような人称制限はなく、主語が3人称の人物（例文(23a)）であっても、1人称（例文(23b)）あるいは2人称（例文(23c)）の人物であっても、主格主語に合わせて動詞の語形が変化する。

る以外は形式上変わらない。

(23) 街へ行きたがっている。

- a. (Jis) nori eiti į miestą.  
 彼.NOM ~したい.PRES.3 行く.INF 町へ  
 (彼は) 街へ行きたがっている。
- b. (Aš) noriu eiti į miestą.  
 私.NOM ~したい.PRES.1.SG 行く.INF 町へ  
 (私は) 街へ行きたい。
- c. (Tu) nori eiti į miestą.  
 君.NOM ~したい.PRES.2.SG 行く.INF 町へ  
 (君は) 街へ行きたい (行きたがっている)。

いわゆる 1 人称命令は、リトアニア語では、日本語や英語と同様に、2 人称への命令と使役の組み合わせ (使役の命令) という形になる。使役の動詞 *duoti* “与える, ~させる” の命令形に不定詞を添えて表される (例文(24))。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

- Duok ir man truputį atsigerti.  
 ~させる.IMP.2.SG ~も 私.DAT 少し.ACC 飲む.INF

いわゆる 3 人称命令は、直説法現在の 3 人称形に、小詞 *tegu* あるいは *tegul* “~させよ, させろ” を添えて表す (例文(25a))。1 人称の命令の場合と同様に、命令と使役の組み合わせによって表すこともある (例文(25b, c))。

(25) これは彼に持って行かせろ (持って行かせよう)。

- a. {Tegu/Tegul} jis šitą paneša.  
 ~させよ 彼.NOM これ.ACC 持って行く.PRES.3  
 これは彼に持って行かせろ (持って行かせよう)。
- b. Šitą duok jam panešti.  
 これ.ACC ~させる.IMP.2.SG 彼.DAT 持って行く.INF  
 これは彼に持って行かせろ。
- c. Šitą duokime jam panešti.  
 これ.ACC ~させる.IMP.1.PL 彼.DAT 持って行く.INF  
 これは彼に持って行かせよう。

リトアニア語では、遠未来命令と近未来命令は、動詞の形式上とくに区別されない。いずれも同じ命令形によって表される。例文(26a, b)を参照。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

- a. Saldumynus, kurie (yra) ant to stalo, valgyk paskui.  
お菓子.ACC ~ところの その机の上にある 食べる.IMP.2.SG 後で
- b. Saldumynus, kurie (yra) ant to stalo, valgyk dabar.  
お菓子.ACC ~ところの その机の上にある 食べる.IMP.2.SG 今  
そのテーブルの上のお菓子は今食べなさい。

「反実仮想」の表現については、例文(21)と(22)、及び、その解説を参照。

(27) もっと早く来ればよかった。

- a. Būtų buvę gerai, jeigu būčiau anksčiau atėjęs.  
be.SBJV.PAST.3 よい.ADV もし もっと早く来る.SBJV.PAST.1.SG
- b. Jeigu tik būčiau anksčiau atėjęs...  
もし ただ もっと早く来る.SBJV.PAST.3

脱従属化 (in-subordination) の文では、接続法が用いられる。例文(28)を参照。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

- a. (Ar) eitumėte kartu?  
~か 行く.SBJV.PRES.2.PL 一緒に
- b. Gal eitumėte kartu ?  
たぶん 行く.SBJV.PRES.2.PL 一緒に

「反語」の表現としては、リトアニア語では、疑問詞を含む文がよく用いられる (例文(29a, b))。疑問詞を含まない反語の文の使用は比較的まれである (例文(29c, d))。

(29) オレがそんなこと知るか。

- a. Iš kur man tai žinoti?  
~から どこ 私.DAT それ.N 知る.INF
- b. Iš kur aš galiu tai žinoti?  
~から どこ 私.NOM できる.PRES.1.SG それ.N 知る.INF
- c. (Ar) aš galiu žinoti tokius dalykus?  
~か 私.NOM できる.PRES.1.SG 知る.INF そんな こと.ACC
- d. (Ar) man tokius dalykus žinoti?  
~か 私.DAT そんな こと.ACC 知る.INF

いわゆる付加疑問文の使用は、リトアニア語ではあまり一般的ではない。否定の ne “いえ、違う”, あるいは、これに疑問の ar “~か” を添えた ar ne “違うか” が最もよく用

いられる。肯定の taip “はい, そう” や名詞 tiesa “真実, 本当” を付加することもある。  
(30)これを作った (料理した) のは, お母さんだよ。いいえ, 私が作ったのよ。

Čia mamos gaminta, {ne / ar ne / taip / tiesa}?

これは お母さん.GEN 作る.PASS.PAST.P.N 違う/違うか/そう/本当

– Ne, čia aš gaminau.

いいえ これは 私.NOM 作る.PAST.I.SG

### 参考文献

- Ambrasas, V. 1984. Dėl lietuvių kalbos veiksmažodžio morfologinių kategorijų. *Baltistica* 20 (2): 100-110.
- DLKG: V. Ambrasas (ed.) 1994. *Dabartinės lietuvių kalbos gramatika*. Vilnius: Mokslo ir enciklopedijų leidykla.
- Holvoet, A. & L. Semėnienė (eds.) 2004. *Gramatinių kategorijų tyrimai*. Vilnius: Lietuvių kalbos institutas.
- LG: V. Ambrasas (ed.) *Lithuanian grammar*. 1997. Vilnius: Baltos lankos.
- LKG: K. Ulvydas (ed.) *Lietuvių kalbos gramatika*. vol.2. 1971. Vilnius: Mintis.
- Paulauskienė, A. 1979. *Gramatinės lietuvių kalbos veiksmažodžio kategorijos*. Vilnius: Mokslo.